太平洋側４港湾連携会議 第１回「意見交換会」概要メモ

◎　日　時：平成 23 年 1 月 21 日（金）14:05～16:30
◎　場　所：札幌第 2 合同庁舎 8Ｆ 北海道運輸局会議室

１．　北海道クルーズ振興協議会事務局樋口課長挨拶（要旨）

クルーズについては、これまでも運輸局全体で力を入れ振興を図ってきた。全国的にも「港湾」をいかに活性化するか、水産、物流以外のクルーズにも目を向け関心が高まっている。

本日は、ＪＴＢ北海道さんにアドバイザーとして同席をお願いした。共同プロモーション、ポートセールスについてご議論いただき、実りある会議としてこの会議が継続実施されることに期待する。

２．　連携会議の意義・目的

○ 連携メリットにより確認

- ポートセールス時の船社等に対するアピールのグレードアップ
- ポートセールスの効率化
- 東京で一堂に会しプレゼンする場を設けることも可能（日本海事新聞社：瀬戸内海で実績有）
- 情報共有による各地域の底上げ
- 4 港湾連携のクルーズ商品の企画提案など

３．　各地域の現況等

○ クルーズ客船入港状況、港湾の現況、誘致促進活動の現況、主なポートサービス等の現況→事前配付資料等により説明省略

○　函館→港湾連携により、より効果的なポートセールスをしたい。また、アウトバウンドも今後期待されるはずであり、こちらは情報交換しながら対応していきたい。
函館ではH18 頃から地元で色々な企画を組んでＰＲしてきたが、やはり定着化・長続きできるものを組んでいかなければならない。花火はリスキーで無理。テーマを持って検討する必要がある。

○　室蘭→コンサドーレのイベント時の物産展は好評であった。今年度から近隣の白老、登別、洞爺、伊達の物産展をクルーズ船の入港時に実施する。東京・大阪でのポートセールスで船社等からは、北海道に３つ４つ「何か」あれば入る、「花火」なら一つでも入ると言われた。従って、テーマを絞り、キーワード連携することが必要。例えば、「花火」「温泉」「手作り体験ツアー」など。

○　苫小牧→これまで岸壁が空いていなかったため客船誘致には消極的で観光の意識も根付いていない。しかし、21 年度から「ふじ丸」「飛鳥Ⅱ」「にっぽん丸」も寄港し、荷役しない岸壁も 22 年度に完成した。また、市長の公約にもクルーズが入っており、これから協議会を作ろうとする段階だが、色々と教えて欲しい。

○　釧路→函館からの連携呼びかけは渡りに船。単独のポートセールスでは限界を感じており、函館、室蘭、苫小牧のほか東北の港湾とも連携していきたい。共同プレゼンは、予算が少ないなか利点がある。また、近々釧路では「釧路湿原・阿寒・摩周観光圏協議会」から講師を派遣いただき、いわゆる「着地型観光」をテーマに講演会を開催する。これを端緒として「おすすめコース」や地元ならではの「売り」を具体化し、クルーズ客船の誘致に活用したい。

４．　課題の整理と今後の連携施策及び今後のスケジュール

○　港湾及び後背地の整備等（ハード面）→事前配付資料等により説明省略

○　誘致アプローチ等における懸案事項（ソフト面）
・　クルーズ客船を呼ぶのは「港湾」、その後は「観光」。観光部署はクルーズばかりに力を入れられない。従って、港湾がリードしている現況。

○　共同プロモーションや新たな商品造成への対応
＜進め方＞
①　今回の呼びかけが「函館」であったことと、クルーズ船の誘致に関して先駆的である「函館」が、当面幹事となり進めることとする。

② これまで函館市は、2001 年から始まっている「全客連」（全国自治体等のクルーズ実務者レベルの連絡会：誰でも入れる）に加入し、情報交換等してきたが、経験の少ない方には非常に有意義であり、まだ加入していない釧路や苫小牧さんにも、加入をおすすめする。

③ 2 月に清水で「全客連」の会合があり、その後 6 月に函館で開催予定があるので、4 港湾連携会議の次回開催は、6 月に函館で行うこととする。

④ その間にメール等を活用し、準備・整理する。（函館から何らかの形で連絡・依頼）

⑤ 4 港湾連携会議について、函館で「日本海事新聞社」から取材を受けている。
→今後は極力 4 港湾共同のプレス発表とする。

○　ＪＴＢ北海道からの助言等

・「飛んでクルーズ北海道」は、決して新しいものを追いかけているばかりではない。
→良いものは定番として続く。

・「飛んでクルーズ北海道」を含め北海道の北側航路は、一定定着しているが競合も激しく、船社も南側（太平洋側）をどう組み合わせようか検討している。

・まとまることによりポートセールスで強みを発揮できる。

・花火の多い 7 月下旬から 8 月上旬は、青森の「ねぶた祭り」があり、誘致は難しい。

・狙い目の時期は、「飛んでクルーズ北海道」もそうだが、お盆明けの８月下旬から９月のクルーズ閑散期。

※「検討する立場」としてどういうものが良いのか。
・「花火」は例えであり、「花火」を売りにした方が良いと言うことではない。

・函館は「夜景」、釧路、苫小牧、室蘭は近隣とどう連携していくか。一つでも良いので魅力ある「売り」を片道１時間、遠くても２時間で見つけていただきたい。

・苫小牧の売りは「札幌」で良い。その他、旭山、美瑛、富良野などもある。門別、えりも（ブームの予感）も含めて「売り」にしていただきたい。

・その土地ならではの隠された観光地や地元の人が行く店などの情報が好ましい。穴場は「何時何分がおすすめで云々」と具体的にコースを組んでいただきたい。

・アウトバウンドについては、船社として魅力的。

・ＪＴＢはワンバスにこだわるか→クルーズの場合、使い方が色々ある。例えば、プレミアムツアーとしてスイート客にサービスで提供するなど。「飛鳥Ⅱ」はクルーズ代金に色々と付加価値のあるものが入っている。

○　その他
・苫小牧では「ランチショー」をやっているが、将来の市民クルーズにつながればと思っている。

・室蘭→体験、ビューポイント、食で何か一個打ちだそうと調査したところ、これまで地元でもほとんど知られていなかった「ドクターフィッシュ」がでてきた。

・4 港湾連携のプレゼンは、例えばテーマを「とれたて（旬)」として、共有ファイルで整理してはどうか。

以　　上

太平洋側４港湾連携会議　第１回「意見交換会」

平成23年1月21日

地区（港湾）別	所　属	部　署	役　職	氏　名	備考
函館地区	函館市	港湾空港部港湾空港振興課	主幹	萬谷　佳恵	
	函館市	港湾空港部港湾空港振興課	主査	寺澤　輝義	
	函館運輸支局		首席運輸企画専門官	北條　誠一	
室蘭地区	室蘭市	港湾部総務課	振興係長	西舘　武志	
	室蘭市	港湾部総務課	主事	島谷　奈緒美	
	室蘭運輸支局		首席運輸企画専門官	岩間　啓祐	
苫小牧地区	苫小牧港管理組合	総務部総合政策室振興課	課長	植西　勝	
	苫小牧港管理組合	総務部総合政策室振興課	振興係長	松原　敏行	
	苫小牧海事事務所		次長	池田　雅志	
釧路地区	釧路市	水産港湾空港部港湾空港振興課	みなと活性化主幹	白幡　敏弘	
	釧路運輸支局		首席運輸企画専門官	小松　重之	
アドバイザー	ＪＴＢ北海道	法人営業札幌支店営業企画課	営業担当課長	加藤　武	
北海道クルーズ振興協議会	北海道運輸局	海事振興部旅客・船舶産業課	課長	樋口　道雄	
	北海道運輸局	海事振興部旅客・船舶産業課	課長補佐	阿部　純孝	
	北海道運輸局	海事振興部旅客・船舶産業課	旅客船係長	加茂　聖和	